

昭和三年青森縣史料館所藏史書贈付	30	戦時日誌	4B9
	昭和16年		
	12月		
	五日		

調査資料綴

平功績調査部

4
1050

自昭和十六年五月一日
至昭和十六年五月三十一日

第四根據地隊戰時日誌

一般情勢
経過

日	曜	天候	記
一	月	晴	<p>十七空三座水偵隊(四機)ウエーキ攻略部隊ニ編入カレ 金剛丸ヲ五〇五〇發</p> <p>帝國ハ英米ヲ敵トシ開戦トラシク方面防備部隊 命令作第ニ号依リ哨戒ヲ實施シ警戒ヲ嚴ニシテ又 米英兩國對スル宣戰ヲ詔勅傳達ス</p> <p>一三五春島上空三國籍不明ノ陸上機一機現ル高度七千米 第十海上乙區空襲警戒報發令ニ言解除一三五五 司令官竹島砲台視察</p>
八	月	晴	<p>八五子島上空三機ヲ飛行機ヲ認ム 空襲警戒報發令ハ八五解除ハ二〇 一三八鹿島飛行機行島一五〇度六〇涅ニ於テ敵</p>
九	火	晴	

	一八	木	<p>四艦隊信令第三八〇号ニ依ル海平丸ハ、彈藥搭載終了</p> <p>〇七〇〇十七空水偵二機並ニ四艦隊一号艦ヲグリニツケニ向リ發シ、〇三〇〇、〇三〇〇、〇三〇〇、〇三〇〇</p> <p>〇八〇〇司令官竹島陸上基地視察航空隊員三劍示</p> <p>十七空水偵二機、ラハルル方面隱匿偵察、タメ、四三〇、グリニツケヲ發シ、一三〇、降着</p> <p>一三三〇及一三〇〇、二回ニ亘リ英國爆撃機二機、グリニツケ島ニ來攻、十七空水偵二機ヲ以テ之ヲ撃撃退ス</p> <p>二〇〇〇特設監視艇甚生ル、若島諸島平島附近ニ望遠鏡中、静海丸第十五号南丸ヲ現場ニ急行セシム</p>
	一九	金	<p>二〇〇四英國陸上機二機、グリニツケ島ニ來攻セルモ十七空水偵一機ヲ以テ之ヲ撃撃退ス</p> <p>一五〇〇特設監視艇甚生ル、人員並ニ重要物資類ヲ静海丸ニ搭載ス</p>
	二〇	土	<p>雲後晴</p>

二一	日	晴	四艦隊司令第八五号丸水横ニ機ヲグリニツケ 二向ヶ發(一四三〇トリニツケ着)
二二	月	晴	司令官日海丸巡視(戦傷者慰問) 高栄丸、グリニツケニ向ヶ發(四根信令第四九号)
二五	木	晴	第五英國爆撃機ニ機ヲグリニツケ島ニ飛込シ十 七空水偵之ヲ撃攘ス 第六砲艦隊(第七号長号丸、第五号長江丸)二五〇〇着
二六	金	晴	司令官第六砲艦隊巡視
二七	土	晴	運輸促進ニ関スル打合せ
二九	月	曇	司令官秋島彈藥庫ネーケヤツク方面潜水艦 基地及防備隊工事状況視察 第三号南丸、第十五号南丸ボクニ向ヶ出港 (防備部隊兵力部署改正ニ依リ)
三一	水	晴	平壤北第六砲艦隊ニ歸入

四任 聯合艦隊 第四艦隊 第四根據地隊 司令部

三編制

高榮丸

第五砲艦隊

第六砲艦隊 (三上日平環丸編入)

第十四掃海隊

第五十六駆潜隊

第五十七駆潜隊

第五十八駆潜隊

第四防潜隊 (特設先鋒新八の急)

第十二航空隊

二人員現狀

職員官氏名

職	官	氏名	記事
司令官	海軍中將	茂泉 廣一	
参謀	海軍少佐	浦山 千代郎	
同	海軍少佐	多和田 特夫	

自昭和十七年一月一日
至昭和十七年一月三十一日
第四根據地隊戰時日記

一 經過

敵軍情勢並一般情勢

當隊防備擔任區域ハ南方「エトギヤ」方面ヲ基地トスル敵航空機
ノ行動圏内ニ在ルヲ以テ開戦劈頭ヨリ相當執拗ナル敵機ノ來
襲ヲ豫期シ居リタル處敵機ノ攻撃ハ豫相外ニ消極的ニシテ
「トヲツ」島ニ對シ一機ヲ以テ夜間爆撃ヲ一回「グリー」島ニ對
シ防備兵力薄弱ナルヲ乘ジニ乃至四機ヲ以テ本月合計五回
來襲シタルニ過ズ一月下旬「ラバウル」攻略後ハ南方敵陸上基
地ヨリ敵機飛來ヲ認メザルニ至レリ
敵艦艇就中米潜水艦亦廣大ナル當隊擔任區域ニ對スル
防備艦艇ノ手薄ニ乘ジ「トヲツ」錨地奇襲乃至海上交通
線ノ攻撃攪亂ヲ企圖スルモト豫想シ居リタルモホダ來航
兆ヲ認メズ
而シテ「トヲツ」島ハ南洋部隊ノ作戰基地トシテ第四艦隊所

Take down

屬艦艇ノ大部ハ勿論友軍機動部隊他多數補給船船常出入碇為スルヲ常トシ之が被撃或ハ當隊兵力ハ概不四分ノ三直ニ當リタル外策原根據地隊トシテ輸送補給工作休養診療及出陣準備未濟事項ノ整備ニ全カテ致テ以テ友軍作戰部隊ノ圓滑ナル進攻作戰遂行ニ協力セリ此作戰ニ先カテ對潛對空監視ヲ兼テ洋上氣象觀測ヲ為特設監視艇ヲ二隻南一五八度東及三度北一四九度東一隻ヲ派遣シ一月十日ヨリ同十四日迄其ノ任務ニ服セシム
 茲ニ特記スベキハ前進根據地隊ノ特徴トシテ其ノ兵力ハ消極的守勢防禦ニ專念スルモノニ非ズ友軍作戰ノ推移ニ伴ヒ逐次前進攻勢防禦ニ轉進セザルベカラユトテリ即チ南洋部隊各攻略作戰毎ニ當隊ノ艦艇高角砲隊陸戰隊等ヲ分派シ漸次外郭ニ進出セシムルハ無キニ至リ為ニ當隊防備兵力ハ任務ニ比シ甚ダ寡小ト現狀ニ在リ
 ④ 任務編制配備

區分	艦隊名	兵力	主要任務	配備
海面防備部隊	高榮丸 第五砲艦隊 第六砲艦隊 第七掃海隊 第八駝背隊	日海丸 静海丸 京城丸 長江丸 長江丸 平壤丸 五丸 五丸 羽衣丸 能代丸 第九丸 第十丸 第十一丸 第十二丸	一敵艦艇飛行機撃滅 二敵設俘海 三海上交通保護	常備配備
陸上防備部隊	第四防備隊	特設砲台 八 特設防空砲台 四 防空見張所 一 特設見張所 八 第三英志丸 第一金宝丸 第一吉祥丸 甚生丸 幸生丸 壽雨丸	特設監視艇 一敵艦艇飛行機撃滅 二見張警戒 三海上南方海面 四敵艦艇基地 五敵時警備 六離島運輸 補給	日間 第三哨戒配備 夜間 第三哨戒配備

通信部隊	航空部隊	
第四通信隊	第七航空隊	
日曜島 (丁) 赤丁 (甲乙丙) 夏島 (乙)	基地 グリーンヒック 本隊 (甲乙丙) 鹿島	探員船 第一金比羅丸 第二南進丸 第三光進丸 第四開進丸 舟艇整備船 防備隊本隊
通信連絡謀報	二敵艦艇飛行機 撃滅 三海上交通保護 三グリーンヒック基地警備	
第二配備 其他各間 第三配備	昼間 警備	

1667

時間十七空水偵常時ニ機程度ヲトラソク南方五〇乃至一〇〇哩
海上空哨戒ヲ實施セシメタル外特設監視艇ニ隻ヲトラソク島
南一〇〇哩同一隻ヲボク西ノ一〇〇哩ニ配シ對空監視ニ任セシ
メタリ

對潛哨戒ハ概テニ機程度ヲ以テトラソク環礁外三ノ哩圏内ヲ
干前午後各一回索敵セシムル外哨戒艦艇全數ノ四分三ヲ常
ニトラソク島外國哨戒ニ配シ索敵哨戒ニ任セシム
當隊担任海域通航艦船及船舶ニ對スル交通保護ノ爲ニハ
前記對潛哨戒ヲ以テ間接護衛ヲ實施スル外重要艦船ニ對
シテハ其ノ都度水偵ヲ以テ上空哨戒ニ任セシム
尚ホ亦ハ當面ニ於テ重要ナル補給地ニテ相當多數艦船
出入スルヲ以テ特ニ同地ニ特設配艦隊一隊(三隻)ヲ配シ專ラ同方
面ノ警戒ニ任セシムタリ

四) トラソク島國艦防備ノ強化
開戦直後トラソク島ニ對シテハ昭和十六年度第四艦隊根據地
隊防備計畫書ニ定ムル處ニ依リ北水道北東水道南水道ヲ除キ

タル環礁、通路附近ハ機雷艦ヲ以テ閉塞シタル外更ニ一月下旬
友軍機動部隊當方面進出ニ備ヘ北東水道ニ機雷艦ヲ構成
シ之ヲ閉塞ス

尚當方面航路標識ハ減且速光、警戒管制ヲ實施スル處
一月十六日敵飛行機、トラク、夏島爆撃ハ春島灯台ハ敵機
誘導ニ因トナリタルモ、如クナリシヲ以テ十七日以後當方面航路標識
ニ對シ全部非常管制ヲ實施ス

いブリーニツカ島來襲敵機ニ對スル作戰

前月下旬數回ニ亙ル敵機、同地來襲ニ對シハ更ニ水偵三機ヲ
増派シテ之ヲ擊墜スル企圖セルモ水偵、性能及ハザルト且敵機及
撃及天候、障害ニ因ル水偵、損失相次テ大トナリタルヲ以テ上
旬十三日機銃及八厘高角砲各二門ヲ急遽トラクヨリ同島ニ進
出裝備セシメ水偵、戦闘ニ策應セシメタル處敵機ニ對スル具體的
損害ヲ與ヘ得ザリシモ、後敵機ハ爆撃ヲシテ著シク消極
的ナラシメ以テ被害ヲ最少限度ニ極限シ得タリ

ゴグローン島攻略作戰

ヲバラル攻略作戦ヲ開始スルニ當リ同方面攻略部隊ノ主力タル
横濱航空隊大艇ハトトラック又ハ「グリーニ」ヲ基地トスル時ハ
其ノ行動半経著シク制限セラルヲ以テ敵地「グリーニ」島ヲ
領シ大艇應急基地ヲ設置スベキ旨四艦隊命令ニ接シ
之ガ攻略計画ハ機密トシテ亦面防備部隊命令トテ第四師
ノ通シテ一月十七日京城丸ハ探貝船ニ隻ヲ伴ヒトトラック發途
探貝船ハ「グリーニ」島ニ於テ補給シ一月二十三日早朝「グリーニ」
島ヲ着先ゾ京城丸ヲ以テ威嚇砲撃ヲ加メタル後探貝船ニ分
乘セル陸戦隊一箇小隊ヲ以テ同島ヲ駐領掃蕩シタルモ敵ヲ
認め依テ直ニ大艇應急基地ヲ設營シ後京城丸搭載ノ燃料
爆彈ヲ探貝船ニ依テ補給シ後長期間駐在任務ヲ繼續中ナ
本作戦ハ最小限度ノ兵力舟艇ヲ以テ遠距離トシテ煩
程度ノ部外漁船ガ克ク長途ノ警戒航行ニ耐ヘ而テ故障錯
誤ヲ生ズルコトナク全作戦任務ヲ遂行セルハ特筆スルニ足ル
ト云フベシ

(詳細京城丸「グリーニ」基地隊戦闘詳報(通))

水作戦ニ影響セル事項

(1) 戦時増備彈藥ノ配給アリタルモ砲臺ハ之ニ對スル彈藥庫ノ餘積少ナリ軍需部ニ一時預テ入レル守具狀ニシテ不便尠カラス各砲臺彈藥庫格量ノ増大ヲ要ス

(2) 飛行機隊ヲクリニツケ島ニ進出當初ハ之ニ對スル防禦薄弱ナリシ爲數回攻撃手ヲ受テ多少ノ損害ヲ受ケタルモ高角砲及機銃ノ進出後ハ敵ノ攻撃著シク消極的トナリ被害ヲ最少限度ニ止メ得タル結果ヨリ見テ飛行基地等ニ對シテハ最少限度ノ固執防禦ハ是非共之ヲ具備セシムルヲ要ス

二人員ノ現狀

(3) 職員官氏名

職	官	氏名	記事
司令官	海軍中將	茂泉 眞一	
参謀	海軍少佐	浦山 十代三郎	
同	海軍少佐	多久 和時夫	
同	海軍機関少佐	木下 定輔	

自昭和十七年二月一日
至昭和十七年二月五日
第四根據地隊戰時日誌

一 經過

(一) 一般情勢 茲ニ敵軍ノ情勢

南方ニシテ、ヤン方面ヲ基地トスル敵英國機ハ、コバール攻略後當
隊担任海域ニ飛來セルヲ認メズ、行動半終ヨリ、推察スルモ今後
母艦飛行機ヲ以テヒ、ガル限リ當方面皮殼ヲハ不可能トナレリ
而シテ敵米國海軍ハ開戰辭刀頭ノ敗戦ヲ糊塗スル手段
トシテ必ズヤ我が虛ニ乘ジ機動奇襲作戦ニ使ツベキコトヲ豫
想シ居リタル処、果テ二月一日「マーシャル」方面ニ來襲セル空母
ヲ主隊トスル一有力支隊ハ濠洲新西蘭ヲ引進基地トシテ
二月ニテ日コクリ上ツケ、南東海上ニ出現、ドック又ハコバールヲ衝
カントシテ撃退セシメタリ、其ノ後依然トシテ敵航空母ハ友軍航空部
隊哨戒機ノ虚ニ乘ジ當方面皮殼ヲ機今日ヲ窺ヒ居ル事ト判
断ス

一方米國潜水艦ハ開戰勢頭至下、日本近海及西南太平洋

洋一ニ失没タルモ當方面ニ未ダ飛航ニ非テ總ニガリニ處ニ月
中旬以降其ノ活動頻ニ活潑ナリ當隊担任ニ已域ニ於テ雷
撃ヲ受テタル輸送船ニ隻ニ及ビタリ而シテ從來此島馬東方
面ヲ基地トセル敵潜水艦ハ其ノ後攻路ヲ裁ニ進展ニ依リ濠洲
乃至布哇ヲ基地トヒガレカカサルト且地形北島西南方面行
動ハ著シク困難トセル現狀ナリ觀テ内南洋方面重要ナル當
策源地ニ對シテハ今後執拗ナル交通路攪乱ヲ企圖スルモ判
斷ス

三 作戰 指導

敵機動部隊ニ對スル警戒
空母ヲ主隊トセル敵機動部隊ニ對スル哨戒索敵配備ハ友軍
二十四航空戰隊所定ノ通りトシテ島ニ對シテハハハハ
攻路後南方面ヨリノ來襲ハ公算極メテ少トナリタルモ北乃至
北東方面ニ對シテハ依然トシテ其ノ公算大ナルヲ以テ特設監視
艇各一ヲボク北方面ノ口渚及トシテ北東方面ノ口渚ニ配シ警戒
戒弁尚敵空母ノ迎接時機ハ前例ヨリ見ルモ且又穩密

近將ヲ要スル点ヨリ見ルモ早朝初米明頃ト判断セラルヲ以テ
 毎日ヨロヨリ六ノ道第一警戒配備(全員戦闘配備)ヲ就キ
 警戒スニ就キ警戒ヲ嚴ニシツアリ(トシク日中ニ月五日ヨ六二)
 四對潜索敵哨戒

前月三引續キ水偵及哨戒艦艇ヲ以テ敵潜索敵哨戒
 ヲ負施シツアリト雖當隊對潜兵カ八目下トシク方面ニ取
 ヲ使用シ得ルモ特設駆潜艇一隊(三菱)水偵四機(補用共)
 ニシテ且天候ノ障碍亦甚大ニシテ未ダ發見致殺手ノ機會ヲ
 作爲ス今後ニ於テ採ラントスル方策左ノ如シ

- (一) 敵潜動力補給ノ弱點ニ乘リ月明ノ夜飛行索敵乃至水
 上艦艇ヲ以テスル對潜掃蕩ヲ以テ之ヲ捕捉攻撃セントス
- (二) 數日間隔ヲ以テ不規則索偵ノ全機ヲ夜間發進セシメ米
 明潜航開始前ニ之ヲ捕捉攻撃致殺手セントス
- (三) ラバウル方面作戰協力
- (四) ラバウル攻略後同方面作戰協力ヲ為シ空水偵三機
 ヲカビエンニ進出カガリ上ツテ高角砲隊(八機高角砲二門砲

員共ハコトハウルニ進出ル候第ハ根據地隊司令官ノ指揮
ノ下ニ同方面ノ作戦ニ從事セリ

(四) グリーン基地隊ハコトハウルニ攻略後直ニ機收ノ豫定ナリシ處ヨリ
ウルニ方面敵機來襲頻數ナルニ至ラズ次期ノ口星ニ島方面

作戦ニ對シグリーン島ハ戦略要地ナルヲ以テ横浜航空隊ハ
司續キ同地ヲ基地トシテ作戦ヲ繼續スル上日第ハ根據地

隊ヨリ要求アリ依ツテグリーン基地隊ハ當分同地ニ
停タリテ基地任務ヲ續行セシムルコトナレリ

(三) 二月二十四日ニシテ汽船森事山丸トシテ入港ノ際北水道ノ北方
十哩ニ於テ敵潜水艦ノ雷殺手ヲ受ケタルヲ以テ直ニ航空機及哨

戒艦艇ニテ索敵セシメタルモ之ヲ發見スルニ至ラズ候ニ故間浮
上ノ機會ヲ捕捉セント止圖ナリ

當日月齡八七ノ月没一六日没一八日七ニテ月明ニ非カルモ天
晴ニテ夜間ノ視界極テ良好ナリ

水偵三機薄暮發進概信判明セル敵潜水艦ヲ索敵ヲ各機並ニ
一機ハ水上航走中ノ敵潜水艦ヲ發見味方水上艦艇ト判

港口警備隊 部	通信部隊	航空部隊	
第四港務部	第四通信隊	第七航空隊	
長浦 曳船 舟艇後備漢船	本隊 (甲乙丙) 夏島 (乙) 日曜島 (甲乙丙) 冬島 (乙) 楓島 (乙)	防備隊本隊 舟艇後備漢船 第二開進丸 第三金元羅丸 特設監視艇探船 第三二六八丸	善清丸 其基丸 特設監視艇探船 第三二六八丸 第三金元羅丸 第二開進丸 舟艇後備漢船 防備隊本隊
港口警備隊 運輸補給救難	通信連絡課報	敵艦艇港行機救護 海上交通保護 三ヶりしッ其基丸警備	六遊島運輸補給
港口警備隊 警備	第一夜間 第二既備 自一日ヨロヨロ 至二日ヨロヨロ 第三既備	昼間 第一既備 第二既備 第三既備 第四既備 第五既備 第六既備 第七既備 第八既備 第九既備 第十既備	每日二回南九兩水道 對潛索敵 對潛索敵 對潛索敵 對潛索敵 對潛索敵 對潛索敵 對潛索敵 對潛索敵 對潛索敵

司令部
職員官氏名

人員ノ現狀

<p>基正隊</p>	<p>海上部隊</p>	<p>水上部隊</p>
<p>第一 東京丸 第二 紀美丸 第三 鳥取丸 第四 日本丸 第五 トリヤ丸 第六 南進丸 第七 光進丸 第八 陸戰隊</p>	<p>第五 紀美丸</p>	<p>第四 備隊 水之文隊</p>
<p>第一 東京丸 第二 紀美丸 第三 鳥取丸 第四 日本丸 第五 トリヤ丸 第六 南進丸 第七 光進丸 第八 陸戰隊</p>	<p>第一 國光丸 第二 昭南丸 第三 拓南丸</p>	<p>特設 砲台 特設 砲台 特設 監視艇 特設 監視艇 第一 鳥取丸 第二 光進丸 第三 陸戰隊</p>
<p>一 航空人艇隊支援 二 戰時警備 三 八八ル基地松進</p>	<p>一 敵艦艇飛行機 二 敵艦艇 三 海上交通保護</p>	<p>一 敵艦艇飛行機 二 見張隊警戒 三 戰時警備 四 雜島運輸補給</p>
<p></p>	<p>第三 哨戒配備</p>	<p>第一 哨戒配備 第二 哨戒配備 第三 哨戒配備 第四 哨戒配備 第五 哨戒配備</p>

職	官	氏名	記
司令官	海軍中將	茂原水慎一	海軍少佐
參謀	海軍少佐	浦山千代三郎	海軍少佐
同	海軍少佐	多久和時夫	海軍少佐
同	海軍少佐	木下定輔	海軍少佐
機関長	海軍機関大佐	吉井常一	海軍機関大佐
軍醫長	海軍少佐	杉橋豊次	海軍少佐
主計長	海軍主計中佐	藤原一二	海軍主計中佐
附	海軍主計特務中尉	佐藤芳雄	海軍主計特務中尉
	海軍兵曹長	山口修治	海軍兵曹長
	海軍兵曹長	府田保士	海軍兵曹長
	海軍看護兵曹長	安井英	海軍看護兵曹長
	海軍主計兵曹長	北村春司	海軍主計兵曹長

（月頭現在員）

記	事	員	数	兵	種	兵	種	機	関	科	主	計	科	備	人	合	計
		二〇		五		八		二		三		五					

自昭和十七年三月十一日
至昭和十七年三月三十一日

第四根據地隊戰時日記

一、經過

(一) 一般情勢

敵米國機動部隊ハ依然トシテ虛ニ乘ジ當方面來襲ヲ企圖シツ、アルモノ、如ク更ニ敵潜水艦ハ前月未頃ヨリ當隊担任海域ニ出現スルモノ頻ニ増加セル英ヨリ見ルニ南西太平洋ニ行動ノ制肘ヲ受テタル米潜水艦ハ主トシテ南方攻路ノ重要基地タルトシテ各方面ヲ目標トシテ執拗ナル交通路攪亂ヲ企圖スルモノト判断ス此ノ間ニ於テ南洋部隊ハガラモアラエラエ攻路作戰ヲ敢行スルニ當リ當隊ハ一部兵力ヲ派遣シテ同作戰ニ協力セラル外當隊ノ大部ハ敵機動部隊ノ警戒及敵潜水艦ノ索敵攻撃ニ當リタリ

(二) 敵軍ノ情勢

(1) 米國機動部隊

其ノ動靜詳ラカオラザルモ空母ヲ主隊トスル米國機動

部隊ハ濠洲方面ヲ基地トシトラスク、方面防備警戒、
虚ニ乘シ機動ヲ企圖シ居ルモノ、如シ

潜水艦

西南太平洋ニ其ノ據矣ヲ失ヒタル敵潜水艦ハ行動半終
及行動地域ニ大ナル制時ヲ受ケタルヲ以テ專ラ南方作
戦ノ重要基地タル當方面海域ニ出現必至ト判断シ
居リタル處、^録月下旬以降其ノ行動頻ニ活潑トナリ三月
中當隊担任海域ニ於テ發見セル敵潜水艦數四、雷撃
ヲ受ケタル船舶合計四隻ニ及ベリ

(内敵潜水艦中擊沈確實ナルモノ一、敵潜水艦擊手依リ
被害沈没船舶一アリ)

三月三十日トラスク在泊中、軍艦夕張ハ敵潜水艦ラシキ
電話ノレポートヲ數回ニ亘リ感受セル等ヨリ考察スルニ
トラスクノ近海ニハ常ニ二乃至三隻ノ敵潜水艦アリテ交通路
攪亂ヲ企圖シツ、マルモノト判断ス

飛行機

部 隊	港内警戒	通信部隊	航空部隊	部 隊
第四港務部	第四通信隊	第十七航空隊		
本隊 長浦茂 探員船(除礁用) 第五南州丸	本島(甲乙戊) 夏島(甲乙丙) 日曜島(甲乙丙) 冬島(乙丁) 楓島(乙丁)	本隊(甲乙戊) 夏島(甲乙丙) 日曜島(甲乙丙) 冬島(乙丁) 楓島(乙丁)	防備隊本隊 特設監視艇三(探員船) 第一金比羅丸 第二金比羅丸 第三金比羅丸 第四金比羅丸 第五金比羅丸 第六金比羅丸 第七金比羅丸 第八金比羅丸 第九金比羅丸 第十金比羅丸 第十一金比羅丸 第十二金比羅丸 第十三金比羅丸 第十四金比羅丸 第十五金比羅丸 第十六金比羅丸 第十七金比羅丸 第十八金比羅丸 第十九金比羅丸 第二十金比羅丸 第二十一金比羅丸 第二十二金比羅丸 第二十三金比羅丸 第二十四金比羅丸 第二十五金比羅丸 第二十六金比羅丸 第二十七金比羅丸 第二十八金比羅丸 第二十九金比羅丸 第三十金比羅丸 第三十一金比羅丸 第三十二金比羅丸 第三十三金比羅丸 第三十四金比羅丸 第三十五金比羅丸 第三十六金比羅丸 第三十七金比羅丸 第三十八金比羅丸 第三十九金比羅丸 第四十金比羅丸 第四十一金比羅丸 第四十二金比羅丸 第四十三金比羅丸 第四十四金比羅丸 第四十五金比羅丸 第四十六金比羅丸 第四十七金比羅丸 第四十八金比羅丸 第四十九金比羅丸 第五十金比羅丸 第五十一金比羅丸 第五十二金比羅丸 第五十三金比羅丸 第五十四金比羅丸 第五十五金比羅丸 第五十六金比羅丸 第五十七金比羅丸 第五十八金比羅丸 第五十九金比羅丸 第六十金比羅丸 第六十一金比羅丸 第六十二金比羅丸 第六十三金比羅丸 第六十四金比羅丸 第六十五金比羅丸 第六十六金比羅丸 第六十七金比羅丸 第六十八金比羅丸 第六十九金比羅丸 第七十金比羅丸 第七十一金比羅丸 第七十二金比羅丸 第七十三金比羅丸 第七十四金比羅丸 第七十五金比羅丸 第七十六金比羅丸 第七十七金比羅丸 第七十八金比羅丸 第七十九金比羅丸 第八十金比羅丸 第八十一金比羅丸 第八十二金比羅丸 第八十三金比羅丸 第八十四金比羅丸 第八十五金比羅丸 第八十六金比羅丸 第八十七金比羅丸 第八十八金比羅丸 第八十九金比羅丸 第九十金比羅丸 第九十一金比羅丸 第九十二金比羅丸 第九十三金比羅丸 第九十四金比羅丸 第九十五金比羅丸 第九十六金比羅丸 第九十七金比羅丸 第九十八金比羅丸 第九十九金比羅丸 第一百金比羅丸	特設監視艇 第六
一港内警戒 二運輸補給救難 三見張通信	通信連絡 報	一敵艦艇飛行機 二海上交通保護		
四港務部長	四通司令	十七空司令		

隊 地 隊 根

部 水トハ陸上 隊 水トハ支隊	第四防備隊	特設防務隊 特設監視隊 白鷗丸 第二春日丸 探貝船(除礁用) 第二鳥取丸 第一琴平丸	四一敵艦艇飛行機 二二敵艦艇 三三見張警戒 四四戰時警備	四防 水トハ 支隊長	司令部 官令司
部 水トハ海上 隊	第五十七駆潜隊	巨國丸 第五丸 松南丸 第二丸	一敵艦艇航空機 二海上交通保護	第五十七駆潜隊 司令	司令官

右第三兵力部署以外ニ他部隊ノ指揮下ニ在リテ作戰ニ從事中ノモノモ左ノ如シ

ハ 第十四掃海隊

「ラバウル」攻略戰ニ參加後外續キ「ラバウル」方面防備部隊ノ指揮官ノ指揮下ニ在リテ「ラバウル」方面攻略戰ニ從事中ナリ

ニ 第四防備隊 八糧高南砲隊

八糧高南砲隊(二門)ハ引續キ「ラバウル」方面防備部隊ノ指揮官ノ指揮下ニ在リテ「ラバウル」方面攻略戰ニ參加同方面攻略後ハ「ラバウル」ニ在リテ同方面作戰ニ從事中ナリ

「水トハ」八糧高南砲隊(四門)ハ「ラバウル」方面防備部隊ノ指揮

指官指揮ノ下ニ「ウエーキ」攻略作戦ニ参加爾後引續キ同島ニ在リテ第六十五警備隊司令ノ指揮ノ下ニ同方面ノ作戦ニ從事中ナリ

ハ) 第四防備隊派遣特別陸戦隊

「パリン」島ニ在リテ横浜航空隊大艇應急基地作業ニ從事中ニ於テ三月十七日同隊基地撤収ニ付「ヒ」グリオン」島ヨリ「ラハウル」ニ転進爾後「ラハウル」方面防備部隊指揮官ノ指揮ノ下ニ入り同方面ノ作戦ニ從事中ナリ

ニ) 第十七航空隊派遣飛行機隊

「ハ」ハ「コーシヤル」方面防備部隊第六十五警備隊司令ノ指揮ノ下ニ在リテ「ウエーキ」方面ノ作戦ニ從事中ナリ
又ハ軍艦鹿島飛行長指揮ノ下ニ「カビエン」ニ在リテ同方面ノ作戦ニ從事中ナリ

右ノ外「グリ」ニワケ「モ」トコ「ク」島附近ニ敵潜水艦出現、
情報ヲ得ル、其ノ都度水偵一乃至二機ヲ同島ニ派遣シ同
地ヲ基地トシテ對潛索敵攻撃ヲ實施セリ

(四) 作戰指導

(1) 敵機動部隊ニ對スル警戒

空母ヲ主隊トスル敵機動部隊來襲道接、公算ハ拂
曉早朝ニ於テ公算最大ナルヲ以テ「ト」ラ「ク」方面防備部隊
ハ毎日「〇」四「〇」ヨリ「〇」六「〇」迄第一警戒配備(總員戰團部隊
ニ就キテ警戒)「〇」六「〇」ヨリ「〇」四「〇」迄第三警戒配備(艦内
哨戒第三配備陸上部隊モ右ニ準ズ)ニテ嚴重ナル警戒
ヲ實施セリ

(2) 對潛索敵哨戒

水上艦艇ハ二道配備シテ「ト」ラ「ク」島南北水道「ホ」ハ「島」
水道附近海面ノ哨戒ヲ 航空部隊ハ毎日午前午後
各一回「ト」ラ「ク」島南北兩水道ヲ中心トシテ五〇哩圏内ヲ

又五日ニ一回全航空機ヲ以テ「トラウク」環礁外一五。渚園内
 ノ對潛索敵ヲ實施セリ。右外「トラウク」島ヲ出入スル
 軍艦及重要船舶ニ對シテハ水道外概テ五。渚附近
 航空機ヲ以テ其ノ前路ヲ警戒セシメタリ
 然ルニ其ノ後敵潛水艦出現ノ地莫ク綜合スルニ概テ「トラウク」
 島ヲ中心トスル飛行索敵圈ヲ避ケテ其ノ外方ヲ行動シツ
 ツアルモノノ如シ
 之等ノ敵潛水艦ニ對シテハ「トラウク」島ヲ基地トシテ索敵
 攻撃不可能ナルヲ以テ三月十七日「ゲリニツケ」見張所ノ
 發見セル敵潛水艦ニ對シテハ直ニ水偵一輸送艇一(基
 地物件搭載)ヲ同島ニ派遣同地ヲ基地トシテ索敵攻
 撃ノ結果敵潛一ヲ爆撃手々沈セリ 越ヘテ三月二十六日汽
 船立山丸ガ「モートロウ」島ノ西南約六。渚ニ發見セル敵
 潛水艦ニ對シテハ同日水艇ニ特驅潛一(基地物件
 搭載)ヲ同島ニ派遣同地ヲ基地トシテ四日間附近海面
 ノ索敵ヲ實施セルモ遂ニ敵ヲ發見スルニ至ラザリキ

當隊麾下第十七航空隊ハ所屬水偵機ノ過半数ヲカビ
シ及ウエーキニ派遣シトラック方面ニ於テ使用シ得ルモ
常用補用合計四機ニ過ギズ且モトロックレグリーニツク
島方面ノ航空基地ハ戰備促進作業未善ナリ今回ノ
如ク應心急其基地ヲ急速設置シ寡少ナル航空兵力ヲ急
速移動シ以テ離島ノ基地トスル對潛索敵ハ其ノ作業
極メテ困難ナルモ一面潜水艦ノ油斷ニ乘ジ其ノ意表ニ出
ズルノ對策ハ撃沈一隻確實ナル成果ヨリ見テ有効ナルモ
ノト認ム

海上交通保護

トラック島及ボナペ島ヲ出入スル船舶ニ對シテハ前項
四ニ依リ水道外方五ノ埋附近迄ハ概テ直接護衛ニ依
リテ五ノ埋附近迄ハ航空機ノ對潛哨戒ニ依リ爾余ノ廣
大ナル海域ニ関シテハ護衛兵力寡少ナルヲ以テ航路管制
ニ依ル間接護衛ヲ要員施セリ

其ノ後敵潜水艦ノ動靜ヨリ考察スルニ遠ク飛行索敵圖
外ニ待機シ味方船舶ヲ窺ヒ居ルモノ、如ク其ノ待機位置ハ
主トシテ「トラウク」「ラバウル」間中央海域ヲ選ビツ、アリ
即チ第三海域九ハ三月一日「トラウク」南方一八五哩附近ニ於テ
消息ヲ断チ爾後搜索ノ結果浮流物等ヨリ判断シテ同
地矣ニ於テ數手沈セラレタルモノ、如ク尚五山丸ハ「モートロウク」
西方六。哩ニ於テ敵潜水艦ヲ發見更ニ第八根據地隊
担任海域ニ於テ「モートロウク」北方面ニ於テ本月
數回ニ亘リ敵潜水艦ヲ發見セリ。今、處敵潜水艦ハ
積極的攻撃精神ニ乏シク非武装商船ニ對シテモ浮上砲
撃ヲ敢行スルノ興手ニ出デザルモ將來益々執拗ナル交通攪
亂戰、企圖ヲ豫相心セラル、ト「ラバウル」間ノ海上交
通保護ニ對シテハ輕快艦艇ヲ主体トスル護衛兵力ヲ
配シ船團ノ直接護衛ヲ實施スルノ要アリト認ム。今回
「ラバウル」行重要船舶三隻ヲ以テ船團ヲ編成當隊特

設砲艦ヲ以テ直接護衛ヲ實施セリ 勿論特設砲艦ノ能力
タルヤ僅カニ二三種砲~~種~~門ヲ有スルノミニシテ彼護衛艦ト大
同小異ナルヲ以テ多クノ期待ヲ矯シ得ガレモ敵潛浮上砲撃
ノ機會ヲ防止スル外無防禦船舶、船長以下乗員ニ與
ル精神の援助ハ大ナルモノアリト認ム

(二) 特設監視艇ノ氣象觀測

先ニラバウル攻略作戰ヲ開始スルニ當リ攻略地附近ノ航
空氣象觀測通報ノ目的ヲ以テ特設監視艇甲ニ隻
ヲ約二十日間ノ長期間ニ亘リニューアイルランド附近敵勢
力圏海域ニ派遣シ以テ航空作戰ニ支援寄與シタルハ特
設監視艇本業ノ任務ヲ更ニ積極的ニ攻略作戰ニ及ボシタルモ
ト云フベシ 而モ氣象觀測通報極メテ迅速ニ行
ハレタル本作戰ノ成果ニ鑑ミ今次南洋部隊ニ於テソコモ
攻略作戰ヲ開始スルニ當リ特設監視艇甲一ヲソコモニ群
島北方附近ニ派遣シ約一週間ニ亘リ航空氣象ヲ觀

測通報ヲ實施セシメタル處克ク其ノ任務ヲ達成セリ

(五) 戰備施設、作業、訓練ニ關スル事項

(1) 離島航空基地戰備促進作業

ガリニツクモートロツク水上航空基地ハ對潛索敵上且
以ハコバウル方面飛行、中経基地トシテ戰術上極メテ
重要ナルモノニ付、急速整備ノ豫定ヲ以テ、モートロツクハ本
年初頭ヨリ第四建築部ニ於テ整備ニ着手セシ處ヲバウル
作戰ノ進揚上其ノ人員資材ヲ全部同方面ニ転充セシ爲
中止、止ムナキニ至レリ
之カ爲同方面ヲ基地トスル度毎ニ艦船及輸送機ヲ以テ
應急基地ヲ設置セザルベカラズ、勿論應急基地ナルヲ以テ
其ノ設備必ズシモ作戰ヲ満足スベキモノニアラス、又作戰ノ
要求ニ應ジ航空機、急速移動不可能ナルハ用兵者ノ
最モ苦痛トスル處ナルモ第四建築部ノ餘裕ナキ現狀
ニ於テ已ムル得ザルモノト認ム

トトラク島諸施設

トトラク島諸施設ハ未整備、倉開戦トナリタルヲ以テ開戦時ニ於ケル施設整備方針トシテ航空關係ヲ除キ概不應急現施設ヲ以テ満足シ爾後人員器材ニ餘裕ヲ生ジタル都度本施設ヲ整備スル豫定ナリシ處作戰、進捗ニ從ヒ當方面充當豫定、人員器材ハマイシヤルヲバナル方面ニ転用サレタル外豫定計畫以外、諸機關次々トトラクニ進出整備ヲ必要トシタル關係モアリ本施設ニシテ未ダ竣工セルモ、少ク荷役能力ノ貧弱、軍需品倉庫、狹隘、人員居住施設、不備ハ其ニ作戦ニ支障アルヲ以テ緩急順序ニ應ジ極力整備中ナリ然ルニ開戦後時日、經過ニ從ヒ内地方面ヨリノ資材輸送漸次其ノ量ヲ減シ訓令ニ依ル施設ノ完成期ハ順次進レ勝トナリツ、アリ

根拠地隊坦當諸作業ノ輪替

トトラク島ハ南洋部隊進攻作戰基地トシテ艦隊司令部

令部一及多数ノ官廳常駐スル外多数ノ艦船在泊ス
從テ人員兵器軍需品ノ發着頓ニ輻輳スルノミナラス
陸上方面ニ於ケル醫療休養補給運輸等當隊
ノ任務ハ他根據地比シ著シク多ク極メツ、アリ
勿論右任務ハ根據地隊ニトリテハ担任海域ノ防備ニ比
肩マ、バキ本来ノ重要任務ナルヲ以テ職員一同克ク之ヲ
自覺シ右任務作業ニ全カヲ傾注シ以テ円滑ナル作戦
ノ遂行ヲ圖リツ、アリ

(二) 訓練ニ關スル事項

艦艇、航空機及砲台等開戦以來概テ四分ノ三直程度
ヲ以テ哨戒ニ從事シタル爲メ未ダ教練作業ヲ實施スル
ニ至ラズ 戦局漸ク安定シタルヲ以テ概テ翌月ヨリ
教練作業實施可能トナルベシ

四 参考

一 麾下艦船部隊行動

三	三	二	二	二	二	二	二	二	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	日
一	〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一	〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一	日
火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火
輸送任務		三〇〇出		面		方		凡		輸送任務		航海		航海		オ		ラ		パ	
哨区		カ		クツテト		輸送船護衛		クツテト		哨区		カ		クツテト		敵		哨区		イ	
哨区		カ		クツテト		哨区		クツテト		哨区		イ		クツテト		哨区		クツテト		哨区	
クツテト		クツテト		クツテト		クツテト		クツテト		クツテト		クツテト		クツテト		クツテト		クツテト		クツテト	
面 方 凡																					
ポ ナ ホ																					
クツテト		哨区		カ		哨区		クツテト		哨区		クツテト		哨区		クツテト		哨区		クツテト	
哨区		クツテト		哨区		クツテト		哨区		クツテト		哨区		クツテト		哨区		クツテト		哨区	
クツテト		哨区		クツテト		哨区		クツテト		哨区		クツテト		哨区		クツテト		哨区		クツテト	